資料2

第１回 中川のサギ類コロニー保全対策方針フォローアップ会議 資料



令和７年１２月５日
国土交通省関東地方整備局　江戸川河川事務所

目次

（１）R7年の取り組み経過とR8年の計画について　・・・・・・・p.1
（2）流域への展開について（報告）・・・・・・・

（1）R7年の取り組み経過とR8年の計画について

令和7年　試行の実施状況

「（デコイのデザインなどの具体的な内容を）実行する主体となるワーキンググループ（を組織して）で、進めていかなければならない（徳永委員）。」の指摘を受け、徳永委員を中心にプロジェクトチームとして、具体的なデコイの作成やモニタリングカメラの配置等を確認しながら、令和7年繁殖期の試行を①中島地区および②流域において実施した（経過については、4月、6月に委員の皆様に共有させていただいた）。



図　中川周辺における冬ねぐらの分布

【①中川での試行】



下流側の状況



上流側の状況

【実施内容】
・アオサギ型デコイ：下流側に5体、1/28～6/3に設置
・シラサギ型デコイ：簡易デコイ30体×2箇所、2/25～6/3に設置
・人工巣：下流側に2基・上流側に1基、1/28～6/3に設置

【②流域での試行】


デコイの設置状況


カメラの設置状況

【実施内容】
・シラサギ型デコイ：中の島に簡易デコイ30体×2箇所
5/8～5/27に設置
・人工巣：中の島に1基、5/8～5/27に設置
・モニタリング用カメラ：水際や中の島に3台　5/8～5/27に設置
水際に1台　7/25～10/30に設置

令和7年　試行の実施状況　①中島地区における試行：繁殖状況と経過の概要

・コロニーの上流側及び下流側において、サギ類のデコイと人工巣を設置し、サギ類の反応を確認した。
・シラサギ型の簡易デコイへのシラサギ類のとまりなどの反応や、人工巣へのとまりと巣材の抜き取り等の反応があった。

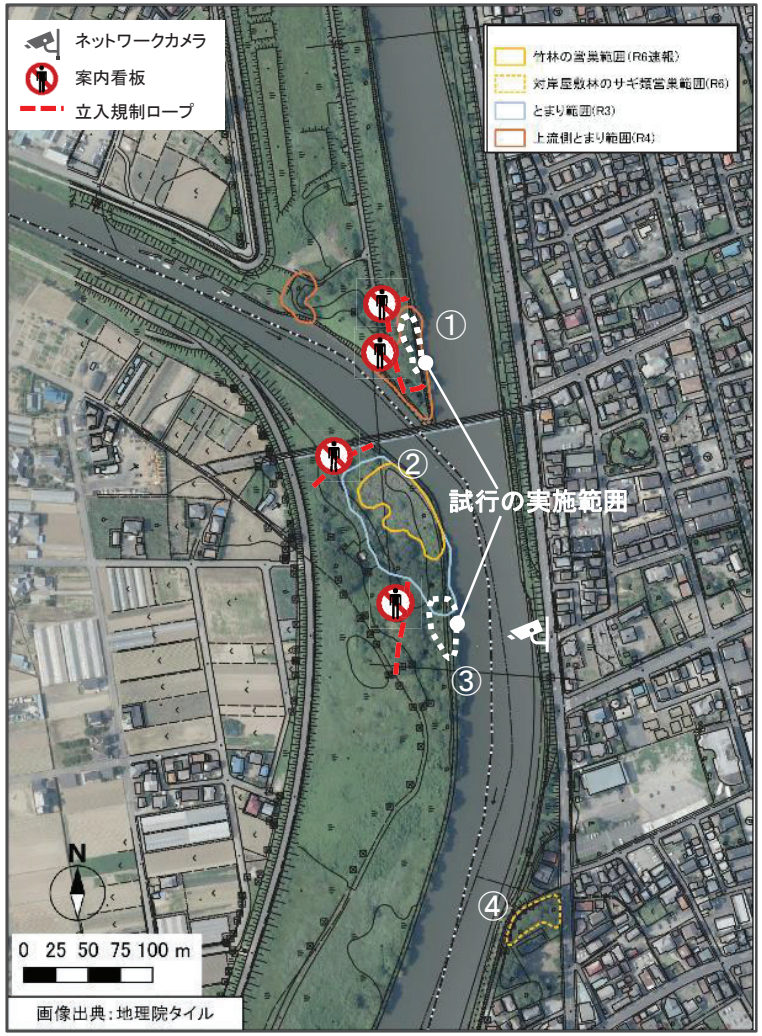


図　中島地区コロニー周辺の状況図

【R7年繁殖状況】

・昨年に続き、中島地区と対岸屋敷林でコロニーを形成
・中島地区コロニー（②）：
　－シラサギ類4種とゴイサギが営巣。R5年以降、アオサギはほぼ繁殖しなくなった。
　－シラサギ類のとまりは4/6に初確認。造巣開始は4/14頃。R5年にアオサギが④に移ってから、シラサギ類の飛来・繁殖開始は遅い傾向。
・対岸屋敷林（④）：
　－アオサギ、ゴイサギ（R6～）とダイサギ(R7～？）が営巣した。
　－R5年にアオサギが移って以降、他のサギ類も加わるようになってきている。
・アオサギの飛来は例年と変わらず（2/9）、シラサギ類（ダイサギ）は3/26に飛来。シラサギ型デコイ近く（①）にとまった。
・中島地区コロニーの繁殖終了が早く、シラサギ類が8月中旬にほとんどいなくなった（例年より1か月早い）。 シラサギ類は対岸屋敷林や、まつぶし緑の丘公園、大吉調節池などで就塒した。

【試行の結果】

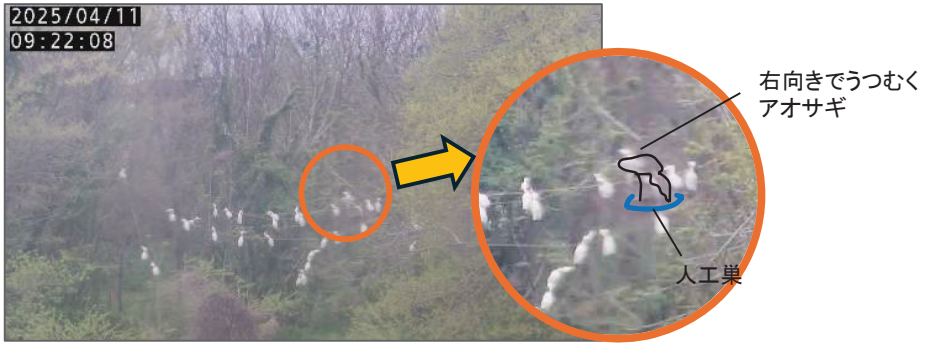


図　シラサギ型デコイのそばで人工巣をつつくアオサギ

・アオサギ型デコイ：反応は、あまりなかった。
・シラサギ型デコイ：飛来初期からの接近、近くでの就塒など、ポジティブな反応があった。
・人工巣：4月中旬以降にとまりが確認された。
　　巣材の持ち去りなど、ポジティブな反応もあった。

令和7年　試行の実施状況　②流域（大吉調節池）における試行：経過の概要

・流域での誘導手法の実施に向け、下記のような計画を作成し、大吉調節池において、シラサギ型デコイを中心とした実験を行った。
・デコイ等への接近は確認されなかったが、島①の水際や、モニタリングカメラを付けた対岸などにサギ類のとまりを確認した。



図　大吉調節池におけるデコイ等の設置箇所位置図

【繁殖の経過】

・サギ類の営巣は確認されなかった。
・中の島やカメラ前の水際をアオサギ、ゴイサギが利用している様子（下写真）が確認された。



図　実施期間中のサギ類のとまり状況

【夏から秋におけるサギ類の動向】

・8月初旬から10月にかけ、シラサギ類、ゴイサギ、アオサギが利用した。
・島①の水際やカメラ前の水際へのとまり（上写真と同様の場所）が多く確認された。
・大吉調節池全体で、最大30羽超の夏塒が形成された。

【試行の結果】

・中の島へのデコイや人工巣等の設置・撤去の手順を確認できた。
・人工巣への野鳥類のとまりが何度か確認され、巣の機能やトレイルカメラの自動撮影によるモニタリングについて確認できた。
・試行箇所は、デコイがなくともサギ類が良く利用する箇所で、水際に人が接近しないなどの理由で選ばれていると考えられた。

これまでの試行の成果等を踏まえたR8年の誘導対策の進め方（案）

【中島地区における成果・課題等】

デコイや人工巣について

・アオサギのデコイへの反応は少なく、サギ類の誘引効果は低いと考えられた。
・シラサギデコイ、人工巣の誘引効果が確認された。
・営巣につながる反応を得るためには、より架巣範囲に近づけるなど、更なる工夫が必要。

その他

・既存の営巣林のマダケの枯死の可能性を踏まえた対応が必要。
・シラサギ型デコイ設置について、市民からの問い合わせ等があったことから、試行の内容や背景についての情報発信が望まれる。
・吉川市側の屋敷林も合わせて営巣林が二つあることや、架巣範囲である竹林の枯死のリスク等、コロニーの不安定化につながる懸念事項がある。

【大吉調節池における成果・課題等】

デコイや人工巣等の試行について

・流域におけるサギ類の誘導対策を実際に開始できた。
・デコイ等やトレイルカメラの設置・撤去、運用について確認できた。

その他

・試行開始がサギ類の渡来後だったこともあり、サギ類の反応は得られなかった。
・公園利用者の目につく場所に案内掲示を行い、調節池来訪者からの問い合わせや苦情等はなかった。
・一部カメラによるモニタリングを継続し、既往の冬塒調査と合わせて、非繁殖期のサギ類の利用状況（よく使われるとまり場所など）について知見を得た。

【R8年（以降）の誘導対策の進め方】

R7年の試行の結果等を受け、今後の誘導対策の進め方を以下に整理した。

・中川のコロニーが、対岸屋敷林（アオサギが中心）、中島地区（シラサギ類が中心）の2箇所あることを前提に対策を進める。
・中島地区コロニー：シラサギ類に焦点をあてて誘導の試行を行い、試行箇所での営巣に向けたより踏み込んだ反応を得るための工夫や、営巣林対策の実験等を行う。
・対岸屋敷林コロニー：当面の河川整備の影響を受けずに存続する可能性が高い。ただし、苦情等への対応が想定される。
・流域への誘導：昨年度に試行を開始した大吉調節池では、少数ペアによる営巣地形成が期待できるアオサギに焦点をあててた誘導対策の試行を行う。ただし、状況に応じてシラサギ型デコイの試行も行う。
・情報発信：誘導対策の試行について、中島地区周辺においてもわかりやすい箇所等で積極的な情報発信を行う。

R8年繁殖期の試行の概要（案）：中島地区

・シラサギ類が、既存の営巣林およびその近接地で繁殖するように誘導（＝架巣範囲の拡大・移動）することを目標に、以下の内容で行う。
・デコイ等の効果をより分かりやすく確認するため、架巣範囲に近い場所での試行を行う。
・河川改修で減少する営巣林の代償に向けて、営巣林整備の試験を行い、効果や課題を検証する。

＜目的・目標＞
【目的】シラサギ型簡易デコイを中心とした誘導対策により、シラサギ類の営巣誘導につながる知見を得る
営巣林を補完する対策についての知見を得る
【目標】営巣林の整備やデコイ等による、シラサギ類の営巣誘導（架巣範囲の移動や、新たな営巣地への誘導）

＜そのほかの目標＞
架巣範囲に面する低水路に係留する人工竹林付きの浮体の基本デザインの検討や、実現に向けた課題の整理



図　中島地区における試行の実施箇所（案）





【設置物等】
・シラサギ型簡易デコイと人工巣を設置（設置箇所や、具体的な数量については調整中）
・実施箇所により、別途モニタリングカメラを設置。
・シラサギ類の営巣林を補完するため、竹の植栽などの営巣林整備について検討する。
・場所により人の接近が想定されることから、トラロープ、ガードフェンス等による立ち入り禁止措置をとり、案内看板を設置する。
・中川左岸（吉川市街側）からの河川利用者からの問い合わせが多かったため、中川左岸にも案内看板を設置し情報提供を行う。
【実施期間】
・シラサギ類の飛来に先立ち、3月上旬に設置する。サギ類の営巣がみられなければ、5月末をめどに撤去する。

R8年繁殖期の試行の概要（案）：大吉調節池

・R7年5月の試行や既往調査の結果を受け、目標や設置物の内容、実施時期を修正しての実施を検討中
→アオサギをターゲットとし、人工巣を中心とし、アオサギの繁殖開始時期に合わせた誘導対策とする



図　誘導対策の試行のための設置計画(案)





＜試行の目的・目標＞
【目的】流域におけるサギ類の誘導に向けた試験及びモニタリング
【目標】中の島の樹林へのサギ類のとまり、塒利用、営巣の誘導

＜試行の内容＞
●複数の人工巣　（→詳細はp.7）
→中の島①②の樹木等に設置する。
●シラサギ型デコイ　（→詳細はp.7）
→必要に応じて、中の島①②の樹木等に追加で設置する。
●自動撮影カメラ　（→詳細は左図及びp.7）
→中の島に立てた支柱に設置する。
公園利用者は、画角外となるか、遠くの人影となり顔の判別はできない
●案内看板　（→詳細はp.6）
→天端道路沿いに立て札を立て、貼付け

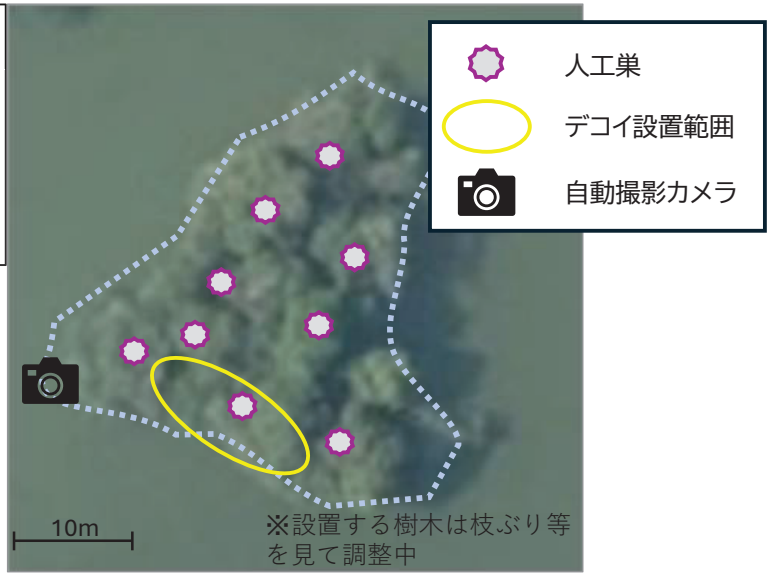
＜実施期間＞
● R8年1月26日から9月末日まで
→アオサギの繁殖開始に先立つように設置し、サギ類の動向に合わせて必要に応じて追加対策を行う。サギ類が営巣しなければ、5月末までに回収する。

R8年繁殖期の試行の概要（案）：大吉調節池の人工巣・デコイ等の設置計画（案）

これまでのサギ類のとまり箇所の観察結果等を踏まえ、サギ類の誘導用の人工巣・デコイ等の設置を以下に設定
アオサギの営巣誘導のための人工巣と、アオサギが飛来しなかった場合の、追加対策としてのシラサギ型デコイを設置

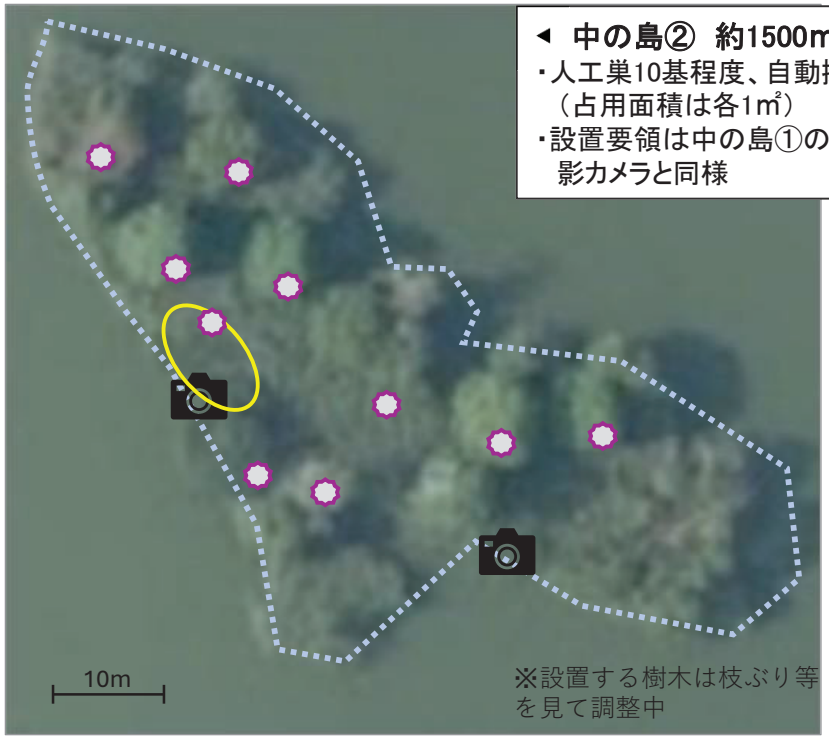
中の島①　約700㎡ ▸

・木の枝や竹を直径50～70cmに組んだ人工巣10基程度を島内の樹木や、農業用パイプ等の支柱に設置する。（占用面積は各1㎡）
・必要に応じて、人工巣の周囲の枝払いを行う。
・3月下旬までアオサギの繁殖行動が確認されない場合、シラサギ型デコイ30体を樹木の枝先に追加設置し、シラサギ類の反応を確認する。（占用面積は各150㎡）
・自動撮影カメラを地面に打ち込んだ単管パイプに設置する。（占用面積は1台当たり1㎡）



◂　中の島②　約1500㎡

・人工巣10基程度、自動撮影カメラ1～2台を設置（占用面積は各1㎡）
・設置要領は中の島①の人工巣、デコイ、自動撮影カメラと同様





◂デコイの設置イメージ
簡易デコイは数個づつをロープにつなぎ、樹木の枝先に吊るすように設置



▸人工巣の設置イメージ
左：樹木への設置
右：支柱を用いた設置

（2）流域への展開について

①大吉調節池に加えて、流域におけるコロニーの受け皿（代替候補地）の調整（個別の打合せや意見交換会等）
②関係自治体による各種計画への働きかけ（環境基本計画、生物多様性地域戦略等）

①流域におけるコロニーの受け皿（代替候補地等）の調整

・これまでに整理された代替候補地を中心に関係機関等との協議

	候補地	所在地	管理者
A	大吉調節池	越谷市	埼玉県　越谷県土整備事務所
B	大相模調節池	越谷市	埼玉県　総合治水事務所
C	まつぶし緑の丘公園	松伏町	埼玉県　公園スタジアム課
D	外前野調整池	松伏町	松伏町　新市街地整備課
E	吉川調節池	吉川市	埼玉県　越谷県土整備事務所
F	新規調節池	越谷市	埼玉県　総合治水事務所
G	そうか公園	草加市	草加市　みどり公園課

・埼玉県みどり自然課や各市町等とも試行の経過や計画について共有
・中川・綾瀬川緊急流域プロジェクトにおいて進捗管理　等



図　サギ類コロニーの保全対策の流域展開（案）
（背景は中川・綾瀬川緊急流域治水プロジェクト）

②関係自治体による各種計画への働きかけ

・各関係自治体について、サギ類の保全への取組に行政上の根拠となるよう各種計画への位置付けに向けた働きかけ
キーワード：グリーンインフラ、ネイチャーポジティブ、生態系ネットワーク　等

自治体	名称	目標年次
埼玉県	埼玉県環境基本計画（第5次） ➔次期策定に向け審議が開始	令和8年度(2026年)
埼玉県	埼玉県生物多様性保全戦略 ➔2026年度を目途に見直し予定	令和13年度(2031年)
草加市	第二次草加市環境基本計画（第三版）	令和17年度2035年）
越谷市	越谷市環境管理計画	令和12年度(2030年)
吉川市	吉川市環境保全指針	2030年
松伏町	―	―

表　関係自治体との経過

年度	内容	自治体
H27年	・各候補地の基礎情報のヒアリング	越谷市、吉川市、松伏町、埼玉県（総合治水事務所）
H30年	・関係自治体のヒアリング	草加市、越谷市、吉川市、松伏町、 埼玉県（環境部）
R2・3年	・現地確認を踏まえたコロニーの情報共有	草加市、越谷市、吉川市、松伏町、 埼玉県（環境部）
R4年	・今後の連携体制のあり方について	埼玉県（環境部）
R5年	・合同の情報共有（意見交換会） （中川のコロニーの人的妨害、河川整備計画） ・中川での試行経過の共有	草加市、越谷市、吉川市、松伏町、 埼玉県（環境部、県土整備部）
R6年	・流域での試行に向けた個別調整 （埼玉県環境部、県土整備部、都市整備部、越谷市） ・流域での試行の合同の情報共有	草加市、越谷市、吉川市、松伏町、 埼玉県（環境部、県土整備部、都市整備部）
今後	・流域全体でのサギ類コロニー保全の展開（公園や調節池等への誘導） ・緊急流域治水プロジェクトの円滑な進展	流域自治体

個別の情報収集・共有
・共通課題としての体制
・具体の対策にむけた活動

人的妨害により、周辺に分散の可能性も。

緊急流域治水プロジェクト

（3）ご助言いただきたい事項について

いままでの有識者会議での検討経緯と方針

- 令和３年１１月の第６回有識者会議までに、河川整備計画の検討途上においてサギコロニーの保全対策の方向性として、営巣地を島状に残したイメージを提示してきた。（白の点線）
- 令和４年１１月の第７回有識者会議では、「洪水を安全に流すことができるか」等の治水上の観点で検討されたものではないが、架巣範囲の改変面積を仮に０㎡にした場合のイメージを提示した。（黒の点線）
- 令和５年11月に河川整備計画を策定し、サギ類の営巣地については影響の低減につとめつつ、治水上の目標流量を安全に流下させることとした。
- 令和７年、令和５年６月の浸水被害を契機とした「緊急流域治水プロジェクト」による具体整備計画が示されたことを踏まえ、治水上の観点からの検討も加えた掘削形状の具体的な検討を開始する。

中の島の形状についての検討状況

注）令和４年10月24日時点での検討であり今後変更することがあります。

取扱注意

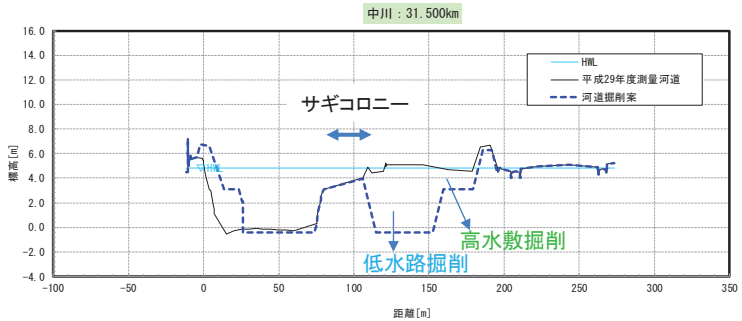
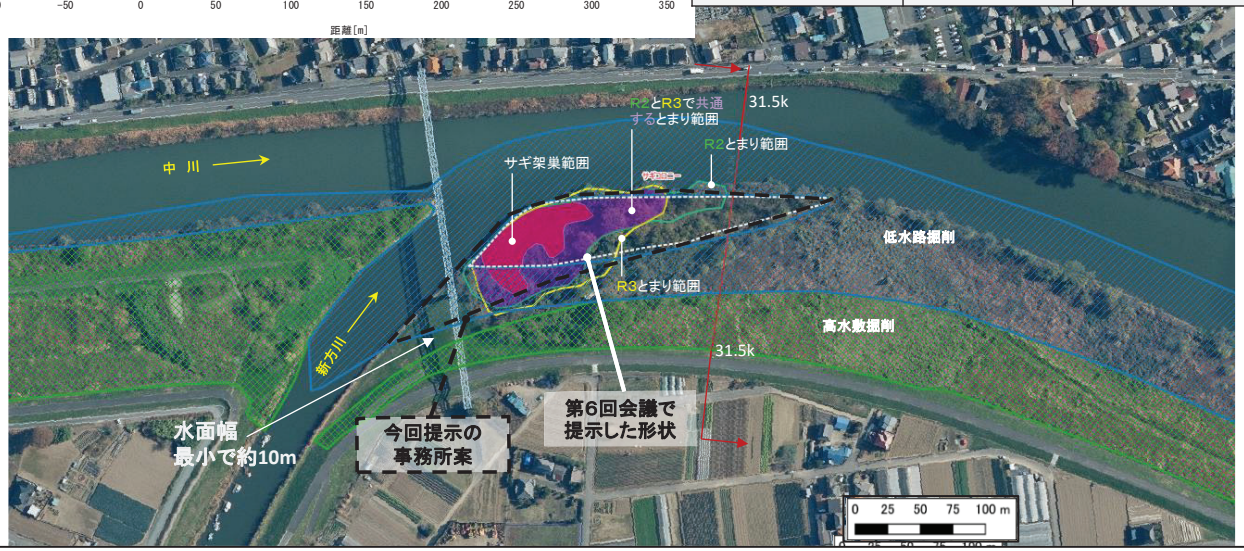
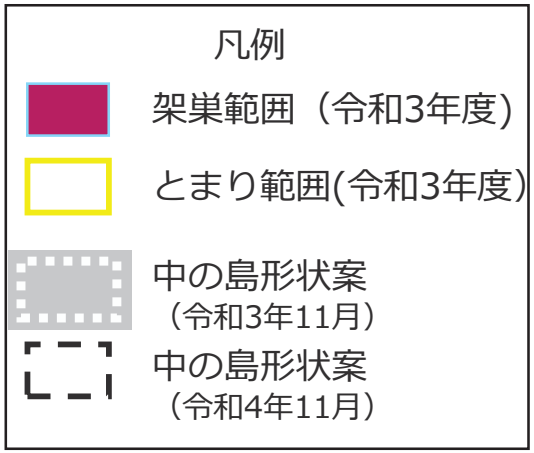


表　中の島の形状の面積比較

	全体の面積(㎡)	改変される面積(㎡)
第6回会議で提示した形状	6,409	架巣範囲：313 とまり範囲：1,848
今回提示の事務所案	13,339	架巣範囲：0 とまり範囲：533
参考：R3・4の営巣林「架巣範囲」＋「とまり範囲」	合計5,721 1,659＋3,862	



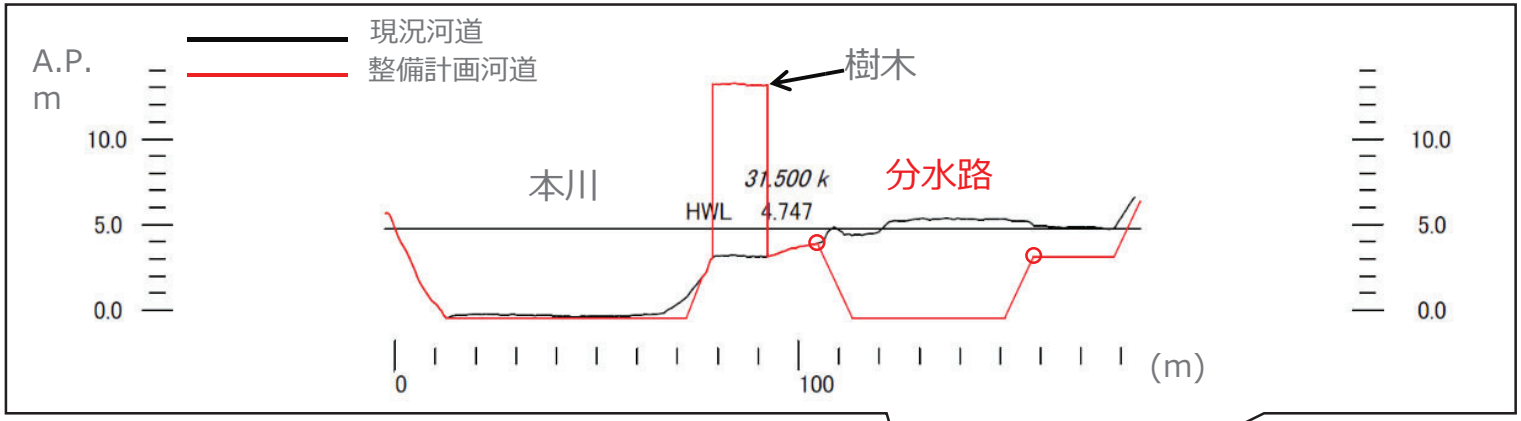
令和４年１１月　第７回有識者会議提示資料



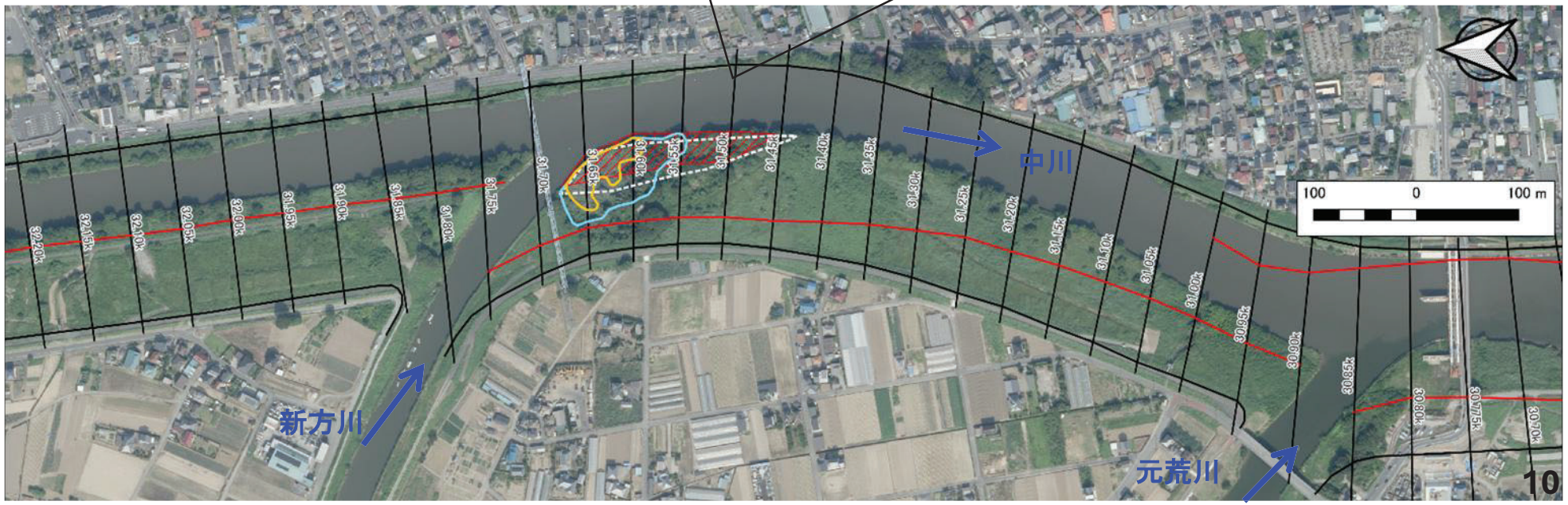
（3）ご助言いただきたい事項について

河川整備計画河道

- 河川整備計画の目標流量を安全に流下させるために必要な河道改修範囲を赤線で示す。
- 架巣範囲は島状に残すことはできるが、範囲の一部を開削する必要がある。







（3）ご助言いただきたい事項について

協議、確認事項

【前提条件】

- 河川整備計画河道は、治水目標をクリアするために必要な最小限の河道改修としている。
- 現状、サギが営巣している範囲の一部、とまり範囲の一部の掘削は避けられない。
- プロジェクトの最終年である令和12年の完成を目指し、インパクト（施工）は令和11年からを予定
-  で囲う範囲を残す前提で形状の設計をしようとしたとき、以下の確認事項について助言をいただきたい。

【協議、確認事項】

- R8～10の期間を活用し、残存する下流部にコロニーを誘導するなど、影響緩和に向けた配慮事項について、工事側で対応できる策はないか。
- 残す島状の河岸の勾配を1：3の土羽としているが、護岸を整備して1：1、1：2に立てた方が良い、などのアドバイスを頂きたい。
- 架巣地へのインパクトが大きいと考えられる範囲は1回だけ掘削する範囲として、インパクトが小さいと考えられる範囲は２段階で時期を分けて施工する区域としたいとき、現地条件からどのような情報を使って判断したらよいか、助言をいただきたい。

等